

アユ



分布	北海道西部以南の日本各地に分布する。 ⁽¹⁾
生態	仔魚は海に降った当初は沿岸域に広く分布し、昼は底層に、夜間は表層に生息する。春になり遡上期が近づくと岸寄りに分布する。河川に遡上したアユは、中流から上流域の大石や岩盤にある瀬に縄張りを形成して定着する。縄張りは平瀬や早瀬および淵の一部に形成する。夏を過ぎて涼風が立つ頃になるとしだいに生殖巣が成熟し、川を降り始める。成熟した雌雄は彼岸頃から11月下旬にかけて産卵場に集合し、中流域最下部の流速の早い砂利底の浅瀬に多数群がって産卵する。 ⁽¹⁾
配慮事項	一生の間に海と河川の中流から上流域とを往復するため、堰などの河川を横断する工作物には適切な魚道が必要である。遡上できる障害物の高さは20～40cm位が限度とされている。アユの生息には早瀬、平瀬、淵が必要である。淵の埋立や石礫の除去は、生息場所の消失に繋がる。成魚には縄張りを作る平瀬が必要であるが、単にブルドーザーでならした人工の瀬では単純すぎる。採餌・休息場所となるような、石の配置をする必要がある。産卵から孵化期、遡上期の土砂流出には十分に注意をする必要がある。産卵場所となる中流から下流域の浮石の多い瀬で、河川工事を行う場合、細心の注意が必要である。アユの餌となる藻類繁茂には新鮮な藻が付着できる基盤を露出させるために定期的な出水が必要である。 ⁽¹⁾

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

オイカワ



分布	北陸・関東地方以西の本州、四国の瀬戸内側、九州の河川中・下流域、および湖沼に広く分布する。 ⁽¹⁾
生態	成魚は浅く、開けた場所に多い。Bb 型より下流の平瀬から淵にかけて多い。産卵期は 5 月下旬であり、水深 5～10cm 程度の流れの緩い平瀬に産卵する。 ⁽¹⁾
配慮事項	河川改修により、流路を直線化し、川幅を広げ、水深を浅くすると、生息に適している。河川改修後に本種が増えたという事例もある。 ⁽¹⁾

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

カマツカ



分布	岩手県、山形県以南の本州、四国、九州、壱岐島に分布する。 ⁽¹⁾
生態	河川の中流ないし下流域や湖の沿岸、およびこれらに連絡する灌漑用水路に生息する。砂底ないし砂礫底のところに多い。産卵期は関東地方では3月下旬から4月中旬、琵琶湖では5月～6月中旬までで川の浅くて、流れの緩やかなところに産卵する。 ⁽¹⁾
配慮事項	きれいな砂礫があることが生息条件。三面張りや河床整正、工事などによる土砂の流入は生息条件を圧迫する結果となるので注意が必要である。 ⁽¹⁾

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

カワアナゴ



区分	宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
分布	茨城県以南の本州太平洋側、四国、九州、屋久島に分布する。 ⁽¹⁾
生態	河川の汽水域から下流域にかけて生息し、砂底や礫底を好む。昼間は岩陰などに潜み、夜に底生の小動物や小魚を捕食する。産卵生態は不明。カワアナゴの仲間では、チチブモドキ、オカメハゼも確認されている。
配慮事項	河川改修による河床の悪化、横断工作物(井堰など)による回遊の阻害に対する配慮が必要である。 ⁽²⁾

(1) 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚、川那部浩哉・水野信彦、1989

(2) 宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物、宮崎県、2000

チチブモドキ



分布	千葉県以南の太平洋に面した各地と小笠原諸島、琉球列島に分布する。 ⁽¹⁾
生態	主に河川の汽水域から淡水域の下流部で、底質が泥底のところを好むが、時には淡水の影響があると思われる岩礁性のタイドプールにもあらわれ、本属魚類の中で生息域が最も広い。 ⁽¹⁾

(1) 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚、川那部浩哉・水野信彦、1989

カマキリ



区分	環境省レッドリスト: 絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
分布	日本の固有種で、神奈川県。秋田両県以南の本州、四国、九州に分布し、本州の日本海側に多い。 (1)
生態	川の中流域を中心に生息し、特に瀬の礫底を好む。産卵期は1～3月で、海の沿岸近くで産卵する。孵化した仔魚は沿岸で浮遊生活後、全長13～16mmの稚魚に成長して川をのぼる。
配慮事項	河川内の人工構造物設置(井堰など)による生活史の遮断に対する配慮が必要である。 ⁽²⁾

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

(2) 宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物、宮崎県、2000